

## 視察・研修報告書

視察・研修先	第84回全国都市問題会議
日時	令和4年10月13日
場所	出島メッセ長崎
テーマ	全国都市問題会議 ビジョンを活かしたまちづくり ～「選ばれる山形市」を目指して～
対応者 (講師)	山形県山形市長 佐藤孝弘氏
概要	<p><b>1 はじめに</b></p> <p>山形市は山形県の県都として行政の中心的な役割を担い、平成31年には中核市に移行し、山形連携中枢都市圏を形成している。松尾芭蕉が訪れた立石寺、樹氷が見られる蔵王温泉スキー場、つや姫などのブランド米、さくらんぼ、ラ・フランス、ぶどうなどのフルーツ、山形牛など魅力的な地域資源を有するが、「選ばれるまち」となるために、市としての明確な将来ビジョンを定め、様々な政策をそれに結びつけて展開することが重要と考えている。</p> <p><b>2 2大ビジョン 「選ばれるまち」となるための基本的な考え方</b></p> <p>山形市では、「健康医療先進都市」「文化創造都市」を2大ビジョンとして積極的な施策展開を行っている。市内には、総合病院が数多く立地し、山形大学病院では、最先端の医療を提供している。中核市移行後は新たに保健所も設置した。これら「医療」と「健康」における強みを活かし、さらに伸ばして都市ブランドにするため「健康医療先進都市」を長期ビジョンとして掲げる。また、山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催や「山形交響楽団」もあり、さらには東北芸術工科大学も立地し多彩な文化芸術活動が高く評価され、平成29年にはユネスコ創造都市ネットワークの加盟認定を受け、「文化創造都市」としてさらなる歩みを進めている。</p> <p><b>3 「歩くこと」をベースにした健康で暮らしやすいまちづくり</b></p> <p>「健康医療推進都市」を目指す山形市が最も重視しているのが市民の健康寿命の延伸である。食事(S)、運動(U)、休養(K)、社会(S)、禁煙・受動喫煙防止(K)に留意する「SUKSK(スクスク)生活」を推進している。保健所内にシンクタンクを設置し、フレイル対策や減塩事業などの取り組みを行う。「ウォーカブルなまちづくり」に力を入れ取り組んでいるのが「健康ポイント事業SUKSK」である。スマートフォンアプリを活用し、歩数によって「健康ポイント」がたまり、抽選で山形市の特産品などが当たり、市民が楽しみながら健康づくりに取り組めるようにしている。また、令和2年3月に「ウォーカブル推進都市」に加わり、中心市街地の公開空地へのイス・テーブル等の設置による滞在空間の創出や、車両通行止めによる道路のテラス化などを実施している。さらに消雪歩道の整備を行い、冬でも歩きやすいまちづくりを実現している。</p>

#### 4 「公共交通の充実」による徒歩の補完

自家用車に頼らなくても公共交通を利用することで、誰もが快適に移動できる環境の実現を目指し、公共交通ネットワークの構築や乗り換え場所となる交通結節点の整備に取り組んでいる。「徒歩＋自転車＋公共交通＋コミュニティ交通」をうまく組み合わせ、自家用車に頼らなくても生活できるまちづくりを進めている。

#### 5 文化芸術活動を通じて持続的発展を目指す

「文化創造都市」の概念を広く市民と共有するため、「山形市文化創造都市推進条例」を制定した。また、「文化創造都市」の拠点として昭和2年に建てられた県内初の鉄筋コンクリート造りである山形市立第一小学校旧校舎をリノベーションし「やまがたクリエイティブシティセンターQ1」をオープンさせた。

#### 6 むすびに

山形市は、2大ビジョンに基づき「選ばれるまち」になるよう、都市ブランド力の向上と持続可能なまちづくりを目指す。

#### 所 感

今回の講演を受け、各地方都市が様々な施策を考え、わがまちが「選ばれるまち」になるようにしていることが分かった。山形市のように「選ばれるまち」になるためには、わがまちの魅力は何かを再度見つめ直し、その魅力をさらに磨きをかける必要があるように思う。

大野城市においても、魅力や特徴を再度見つめ直し、今後もさらに発展していけるように調査研究を重ねて様々な施策を効果的に実行していく必要がある。

-作成者 渡邊 知之-

視察・研修報告書

視察・研修先	第 84 回全国都市問題会議
日 時	令和 4 年 10 月 13 日（木）
場 所	出島メッセ長崎
テーマ	長崎市の魅力あるまちづくり
対応者 (講師)	長崎県長崎市長 田上富久氏
概 要	
<p>1.1 長崎市</p> <p>九州の西端、長崎県の南部に位置し総面積は 405.86km、人口は約 40 万人の中核都市 平地が少なく現在の市街地は埋立地が殆どを占める 港を中心に発展してきた都市 人口密度は下がり続けている 昭和 40 年 130 人/ha 平成 27 年 70 人/ha</p> <p>1.2 ネットワーク型コンパクトシティ</p> <p>人口減少時も都心部の機能を向上させることが重要 都心部以外のそれぞれの地域の伝統を守りつつ、周辺地域とのライン（交通ネットワー ク）を維持する 『長崎サイズ』 坂が多く都市が大きくないことに由来し人と人との距離感が短いことを表す</p> <p>1.3 駅周辺の再開発</p> <p>駅を中心にまちを楽しむコンセプト 日本最短 66km の西九州新幹線の利活用 長崎駅駅舎は夜景に貢献するために光を透過する幕屋根を使用 MICE 施設出島メッセ長崎（2021 年開業） 松が枝国際観光船埠頭の拡張（2 バース化） →以前は埠頭が一隻ずつしか利用できず毎年 200 隻程お断りしていた（2025 年完成）</p> <p>1.4 長崎は交流のまち</p> <p>古賀十二郎 「港あり 異国の船をここに招きて自由なる町をひらきぬ 歴史と詩情のまち長崎 世界のナガサキ」</p> <p>1.5 長崎市の歴史</p> <p>1571 年南蛮船</p>	

1640年～出島唐屋敷  
1860年～居留地の時代  
1920年～上海航路の時代  
1945年～観光都市の時代（昭和の観光都市）  
現在（21世紀の交流都市）  
海外富裕層学術都市

## 2.1 観光は誰のため？

訪れる人・仕事をする人・市民にも喜ばれるもの  
DMO民間と長崎市がパートナーになってまちづくり

## 2.2 まちの価値とは？

再開発はまちのOSを書き換える作業  
→オープンソースのイメージ  
アプリを市民が作る

e. g. ドイツのバーデン＝バーデン

別府が栄えて由布市が斜陽の時、古代から保養地として有名なドイツのバーデン＝バーデンに由布市の人々が視察に訪れた。高度成長期には珍しく、湯布院のまちの静けさを価値としてアピールして成功する。

・世界新三大夜景

→モナコ・香港・長崎

モナコに資産家が住む理由

→安全・秒単位で国境を封鎖できる体制

モナコグランプリ（F1）

→国土が狭く、道も狭くF1のレースに向いていないが、できないと思うことをやるから価値が生まれる

個性をプラスにするのは考え方次第

東京から遠い→中国に近い

## 3.1 価値を見つける

何でもないところから恐竜の骨発見

平成16年発掘

平成22年公表

宮田先生

何でもないところでもそこに化石があると思う、無いと思わない

→価値も同様

恐竜博物館

周辺の広場の整備

### 3.2 価値に気づく

- ・軍艦島

昭和 49 年閉山

日常的に目にしていたがそれに価値があるとは思っていなかった

キリシタンも同様

- ・長崎さるく（地元のガイドと共に町中を歩くイベント）

20 年ほど前から実施

価値のあるものや面白いものを探す魅力を見つける

コースを作った人が結果的にガイドになる→面白いから話したいことが多い

3 分の 1 観光のため、残りはまちのため

キャッチコピー「素通りのまちからストーリーのまちへ」大村市

### 3.3 価値を磨く

- ・景観専門監の導入（平成 25 年）

グラバー園の上にある鍋冠山展望台

展望台からは景観の一部しか見えなかった

→スペース拡張バリアフリー化

- ・出島表門橋架橋

出島に負担をかけない

川に橋脚はNG

出島より目立たない

この三つ条件に合致したものを設計

- ・文学館内喫茶アンシャンテ

平成 29 年まで喫茶として営業していたが、利用者は減少し運営が厳しくなったので喫茶店としての営業を終えた

思索空間 アンシャンテとして生まれ変わった

→市では予算の制約に縛られるが専門監が自由な発想で

- ・まちぶらプロジェクト回廊を設ける

町屋の風情を残したまま開発を行うと補助金

煉瓦造り等

### 3.4 価値を生み出す

- ・長崎スタジアムシティ

→従来のスタジアム施設のイメージに囚われない施設（サッカーやバスケットボールの試合が無い時にも市民に使用される施設）

- ・長崎大学高度安全実験施設 BSL-4（2021 年）

→大学の存在が大きくなっている

HafH：旅のサブスク

→新しい旅の形

さかのうえん

斜面空き家除却後の市民農地として活用

→地域の課題が資源になるという発想の転換

空き地・空き家は若者の住まいコミュニティ

#### 4.1 終わりに

交流に気づくためには交流が欠かせない

風の人：新しく住み始めた人 or 一時的に住んでいる人

土の人：古くから住んでいる人

風の人と土の人の交流が大事

天の時・地の利・人の輪を活かす

### 所 感

2004 年をピークに日本の総人口は減少を続けている。新型コロナウイルス感染症の影響により在宅ワークが浸透したことで曲がりなりにも東京への一極集中に歯止めがかかった一方、出生数が下がる傾向には変わりなく少子高齢化、労働人口の減少、地域経済の衰退などは喫緊の課題である。

長崎のまちは 450 年前の開港から現在まで、異文化交流や観光で発展を遂げてきたが従来型の観光スタイルのままでは都市の魅力が薄れてきていた。魅力のあるまちづくりとして、西九州新幹線開業を一つのターゲットとして駅周辺の再開発に着手。夜景スポットとして有名な稲佐山にあるテレビ塔をライトアップするという発想の転換や平和公園の街灯のあり方等、自由な発想を持った外部からの人材を登用したことによりまちはより洗練されたものになった。大野城市も長崎市同様、日本最古の朝鮮式山城大野城や点在する窯跡等の歴史遺産があるものの観光面で十分に魅力が発揮されているとは言い難い。観光都市とベッドタウンという、長崎市とは異なる様相を見せる大野城市ではあるが、参考にすべき点は大いにある。例えば、防犯や利便性としての役割が主な街灯や照明は、照らし方や色合い、何を照らすのか等、デザインを意識したものにすれば夜間に人が集まるフォトジェニックな空間を創出できる。長崎市では観光に力を入れているので景観専門監という専門的な知識を持った人を外部から取り入れていたが、大野城市ではデジタル面でのトップランナーになる為に、デジタルの専門家を外部から登用するのも一つのアイデアである。

価値を見つける、ということはこれから先の少子高齢化社会を地方自治体が生き延びる為に求められるものである。長崎の端島炭坑、所謂軍艦島は 2015 年に文化遺産として世界遺産に登録されたが元々は観光地として注目されていた訳では無く、地元の人にとっても特別な存在でも無かった。そこで生活している人にとっては日常生活の一部でも、他の地域の人から見れば特別に映るものとして新たな観光資源となる可能性は、長崎市

の軍艦島程では無いにしてもどの自治体にもあると思われる。長崎さるくという取り組みは大野城トレイルと通じる部分があり、他の講演の内容ではあるがイベントへの参加者は所謂”お客様”という立場では魅力が薄れてきており、参加者が当事者となっておもてなしをする側になるという視点は本市のイベントでも取り入れる価値は充分にあると思われる。西鉄天神大牟田線連続立体交差事業は正しく新しい価値を生み出す事業であり、西九州新幹線の開業に合わせ駅周辺を開発している長崎市の取り組みは参考になる部分はあるだろう。本講演のあった出島メッセ長崎は駅直結の施設であり、駅から近い事の便利さを実際に感じた。

-作成者 原田 真光 -

視察・研修報告書

視察・研修先	第84回 全国都市問題会議
日時	令和4年10月13日(木)
場所	出島メッセ長崎
テーマ	「交流の産業化」を支える景観まちづくり ～長崎市景観専門監の取り組み～
対応者 (講師)	一般社団法人地域力創造デザインセンター代表理事 高尾忠志氏
概 要	
<p>1. 長崎市のまちづくり戦略 人口が減少している</p> <p><b>課題</b> 市民の暮らしと経済を支える新しい産業を確立し、持続可能な地域社会と地域経済を構築すること</p> <p>田上富久市長は、「交流の産業化」 現場で職員と一緒に考える、職員と同じ条件(予算・工期)</p> <p>オリジン(原点) ➡ オリジナリティ(個性) 育て上げる地域戦略の実現</p> <p>2. 長崎市景観専門監の導入 100年に一度のまちづくり</p> <p>① 長崎市が行う公共事業のデザインの指導と管理 ② 長崎市職員の育成</p> <p>「個々の公共事業によって長崎のまちに『価値』を創造すること 道路や公園の改修、案内サインの設置、街路灯の更新等、どんなに小さな事業でも QOL (quality of life: 生活の質) 向上</p> <p>3. 時代が求める価値とは</p> <p>① 生理的な欲求 ② 安全の欲求 ③ 社会的欲求 (コミュニティや組織に認められる) ④ 承認欲求 (他者に認められる) ⑤ 自己実現欲求 (自分に認められる)</p> <p>一つ一つの事業や取り組みにおいて、ユーザー目線に徹したパブリックデザインが必要</p> <p>4. 価値創造に向けたデザインマネジメント 「地域の価値創造を目指す行政組織」</p> <p><b>課題</b></p>	

- ① 事業の縦割り 長崎まち全体の活性化を推進する母体になるように
- ② 時間 企画→建設→管理  
地道なデザイン調整

#### 5. 人材こそ未来

職員一人一人の日々の仕事の積み重ねが、まちの未来を変えていく  
景観専門監が問う  
担当職員が良い解を見つけ出すプロセスを生み出す「デザインデレクション」

#### 6. さいごに

- 小さな目的～大きな目的となるように
- ・職員育成という人的資本
  - ・人のつながりという社会関係資本
- 各自治体において質の高い景観まちづくりが実現されることを願う

#### 所 感

個性を活かして「選ばれる」まちづくりのためのたくさんの実践報告。まずは、小さなことから始めてみる。個性を出す。何度も訪れたくなるようなしかけ、景観づくり。計画を聞くことができ、大変勉強になった。

私もシャッターアートを母の跡を引き継いで、市民の方と行っている。女性の視点から、今後も大野城市にきてよかったと思ってもらえるうよう、思い出に残るにぎわいのあるまちづくりを、考えていこうと思う。今後長崎は、スタジアムシティができ更に、にぎわうことだろう。

-作成者 岡部 かおり -

視察・研修報告書

視察・研修先	第84回 全国都市問題会議
日時	令和4年10月13日 13時
場所	長崎市 出島メッセ
テーマ	地域との新しい関わり方・関係人口
対応者 (講師)	島根県立大学 地域政策学部准教授 田中輝美氏
概 要	
<p>1. はじめに</p> <p>関係人口とは2016年に生まれた新しい言葉であり、短期間の交流や観光という関わり方でもない。その間にある新しい地域との関わり方であり、若い世代との相性が良いという点も重要なポイントになる。</p> <p>2. 若い世代と関係人口</p> <p>まず若い世代が関係人口を次々と生み出している鳥取市用瀬町の事例。</p> <p>鳥取市内の鳥取環境大学に通っていた2名の大学生が、当初は大学の近くに住んでいたが、住人の紹介で用瀬町の住民に出会い、イベントに参加。マップを手書きで作ったり、屋台を開いたり、週末になると用瀬町を訪れて「週末住人」として活動するようになる。</p> <p>地元住民と一緒に団体を作って空き家を借り、2017年、民泊をスタート。「ふるさとワーキングホリデー」の受け入れも始め、そのうち2人とも用瀬町内に移住し、民泊の施設に住みながら、大学に通うようになった。その後、2軒目となる空き家を借り「体験と民泊 もちがせ暮らしの旅人をオープン」。</p> <p>「ふるさとワーキングホリデー」だけでなく、大学のゼミ合宿や個人客も受け入れ、地元住民に交じって地域・集落の年中行事などに参加するだけでなく、希望に合わせて地域の一員として得意なことや好きなことを活かしたイベントを企画実施することをサポートしている。こうして一度訪れた後、定期的に用瀬町に通ってくるようになった人達を「週末住人s(ズ)」と呼び鳥取を「ふるさと」と感じる若い世代を中心としたコミュニティを運営。若い世代を中心に120人が登録。2021年「株式会社週末住人」を立ち上げ民泊とコミュニティ運営に加えて、地元企業との協働や食の魅力発信といった新規事業を運営。</p> <p>3. 観光以上、定住未満</p> <p>国土交通省は関係人口の実態を調べるアンケートを実施し、2020年2月に公表。3大都市圏に暮らす18歳以上の約2割にあたる1,080万人が特定の地域を訪問する関係人口であるという。</p> <p>例えば島根県浜田市では、「浜田応援団」という制度をつくり、取り組みを進めている。なぜ今この言葉かを考えると需要と供給の変化から説明できる。</p> <p>まず需要サイドは、地域の人口減少に伴い、以前は過疎地域と言われるような一部の自治体のみの問題だったが、日本全体が恒常的な人口減少社会となり、逆に一部</p>	

の自治体をのぞいた多くの自治体が人口減少に直面しているため、特に地方では警戒される存在だった外部のよそ者が、人口減少が進んだことで、逆に歓迎される存在となった。よそ者が関わることのできる余白 = 関わりしろが生まれたと考えることができる。

一方の供給サイドは、首都圏生まれ、首都圏育ちの若い世代が増えたことで、帰省先に代表されるような「ふるさと」を持たない「ふるさと難民」が増えていることがある。ふるさと = つながりに憧れがある。また、若者たちが普段から人とのつながり、安心できる仲間との関係を求めているといった指摘もなされている。地域に残るつながりが、若い世代を引き付ける新しい資源になったと言い換えることができる。こうして両サイドの変化が起こったことで、新しい存在としての関係人口が生まれてきたと考えられる。

#### 4. 「選ばれる」ための新しいインフラ

関係人口に「選ばれる」ためには、関係人口という名前の通り、人との「関係」を重視する必要がある。

新型コロナウイルス感染拡大の影響でリアルな対面や遠距離の行き来が難しくなった面はあるものの、代わりに応援したい生産者や飲食店の物を買って支える動きが各地で活性化した。こうした行動は「応援消費」と呼ばれ、「安いから」、「お得だから」ではなく「応援するために」物を買うという新しい行動様式であり、2011年の東日本大震災ごろから報告されるようになった。「消費は未来への投票」ともいわれる。あらためて「買う」という形も関係人口のあり方の1つであり、「行く」だけではない多様な関わりしろ用意することも、結果的に「選ばれる」まちにつながる。

これからを考えるヒント 3つのキーワード

- ① 名前が覚えられる規模（量より質）
- ② 準備から片付け、打ち上げまで一緒に（脱・お客様は神様）
- ③ 住民の思いや背景も伝える（ストリート化）

#### 所 感

本市では、今すぐに関係人口を求めるようなことはないと感じましたが、数年後には、徐々に人口も減少していき高齢化も進むため、今から本市独自の「関係人口」について調査、研究を行っていくことが必要であると思います。

-作成者 中村 真一 -

視察・研修報告書

視察・研修先	第84回 全国都市問題会議
日時	令和4年10月13日(木) 9:50~11:00
場所	出島メッセ長崎
テーマ	基調講演 「民間主導の地域創生の重要性」
対応者 (講師)	株式会社ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO 高田旭人氏
概要	
<p>(1) ジャパネットと地域創生</p> <p>ジャパネット創業の地である長崎県は、13市町が消滅可能性都市と判定され、2040年までに大きく人口が減るとも言われている。ジャパネットは、36年前長崎の小さなカメラ店としてスタートし、父の高田明は、ラジオを使った新しいショッピングの形を生み、テレビ、チラシ、カタログ、インターネットとさまざまなチャンネルで通信販売事業を行ってきた。</p> <p>ジャパネットグループでは、通信販売事業に並ぶ2本目の柱として、スポーツ・地域創生事業を掲げ、2017年より長崎のプロサッカークラブ「V・ファーレン長崎」の運営を始め、2020年には長崎初のプロバスケットボールクラブ「長崎ヴェルカ」を立ち上げ、現在は「長崎スタジアムシティプロジェクト」を進め、2024年の開業を目指している。</p> <p>(2) 行政と民間の役割の違いについて</p> <p>行政は、誰一人としてつまずき立ち止まることがないように福祉を充実させ、皆が平等公平に恩恵を受けられる環境づくりを目指していると思う。一方、民間企業の役割は「幸福の最大化」。すべての人の願いを平等に叶えることはできないかもしれないが、社会全体における幸せの総量を増やすことが、民間の役割だと思っている。</p> <p>(3) 長崎スタジアムシティプロジェクトへの想いと目指すところ</p> <p>長崎スタジアムシティプロジェクトを行う理由は、「長崎は楽しそう!」「長崎に行ってみよう!」と思ってもらえるとともに、地元の方にも公園のように気軽に来ていただきたいという思いから。最終的には、長崎の人口が増加し、出生率も上がり、地域経済も良い方向へ動き、地域への誇りや自分自身の幸福度も上昇する姿を目指したい。</p> <p>(4) 長崎スタジアムシティプロジェクトで実行するアイデア集</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①荷物の持ち込みを禁止し、ロッカールームをたくさん配置する。</li> <li>②試合後の出庫時間に応じて、駐車料金を変える。</li> <li>③スタジアム・アリーナを活用し、賃貸面積が少なくても快適なオフィスを実現する。</li> <li>④年間シート購入者には、高速Wi-Fiを提供する。</li> </ol>	

- ⑤商業施設の使用ターゲットを昼夜で変えて、稼働率を上げる。
- ⑥スタジアム非稼働日の演出を工夫する。
- ⑦スタジアムのVIPルームは、試合がない日はスタジアムが臨めるホテルとして活用。
- ⑧美味しいビールをつくることで車の交通量を減らし、渋滞緩和を狙う。
- ⑨試合前後にスタジアムで楽しめるサッカー・バスケットの特集番組をつくり、スタジアム内で放送する。
- ⑩語学とスポーツを両方同時に学べるスクールを開設する。
- ⑪長崎大学大学院を誘致し、オフィスへ入居する企業との交流を促進する。

(5) 行政に期待すること

例えば、長崎スタジアムシティ周辺の渋滞への交通網対応やスタジアムシティと稲佐山間のロープウェイの連結などは、民間だけではできないため、「地域を活性化させる」という同じゴールの絵を持って、一緒に理想の地域創生を実現したい。

行政だからできること、民間だからできること、今こそ官民そしてそこに住む地域住民の方々と連携し、手を取り合いながら、長崎をはじめ、地域全体の幸福の総量を増やしていきたい。

所 感

ジャパネットを継承された高田旭人氏は、通信販売事業だけでなく、長崎スタジアムシティプロジェクトやクルージング事業、BSテレビ局の立ち上げ、スターフライヤーとの資本業務提携など、スポーツ・地域創生事業を2本目の柱として事業展開している。また、自社の働き方改革として、スーパーリフレッシュ休暇の導入、社員ランチを会社がプレゼント、70tの断捨離による整理整頓、ノー会議タイムの導入、集中ルームの設置など、アイディアマンであると思う。民間と行政、そして地域住民の方々と連携して、地域創生を目指していきたいと思った。

-作成者 森 和也 -

視察・研修報告書

視察先	第84回全国都市問題会議
日時	令和4年10月13～14日
場所	長崎市出島メッセ
テーマ	個性を活かして選ばれるまちづくり
対応者 (講師)	パネルディスカッション 大杉覚氏、野口智子氏、田中敦氏、桐野耕一氏、都竹淳也氏、藤原保幸氏
<p><b>概要</b></p> <p>「選ばれるまちづくりに向けた都市自治体のアプローチ」</p> <p>まちづくりとはそれぞれの地域で醸成されてきた、根っこにある地域価値を再確認しつつ、そこを起点として、これからの未来図（未来の地域価値を実現させた姿）を地域で思い描き、その実現を試みようとする、価値実現のプロセスだと定型化して考えることができる。</p> <p>アプローチに関しては以下の5つが考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 観光立地型アプローチ 自然や名所・旧跡、温泉や公園をはじめとする集客施設、食、祭りや芸能など新旧さまざまな観光資源を目玉に、不特定多数の観光客を集客することにねらいを置いて発展してきた、全国各地のいわゆる観光地で典型的にとられている。</li> <li>2. 観光政策型アプローチ 観光ビジネスを中心とした地域の活性化や雇用機会創出など経済的な発展を期待し、「選ばれる」ための政策意図を明確にした戦略を打ち出していこうとするアプローチ。</li> <li>3. プラスワン拠点型アプローチ 上記2つが観光資源等の地域資源に着目しているのに対して、観光とは切り離されてきた日常的な地域で営まれる「暮らし」に着目して「選ばれる」あり方を重視したアプローチ。</li> <li>4. 移住・定住型アプローチ 3つめのプラスワン型を当地域の住民として定着させることを目的とした多くの自治体が目指しているアプローチ。</li> <li>5. 価値実現型アプローチ 地域価値の実現にむけたまちづくり活動への参加や関与の対象地域として選ばれているアプローチで、まちづくり活動に関わりたい住民以外の主体がリピーター的に関わりをもつ。</li> </ol>	

「ヒント」

上記のいずれの場合も、過疎な町を訪れる人々に根っこにある地域価値をダイレクトに感じさせられるようにするためには「コミュニケーション」の機会と場所が必要である。

#### 所 感

個人的に思うのはいずれにしても必要なのは心の余裕であり、今は個人にも自治体にも「心の余裕」が無い気がする。経済的にも時間的にも余裕がなければ、いずれのアプローチも成功しないだろう。

コミュニケーション自体には、「他者と関わろうとする心の余裕」が必要だろう。

現状は心の余裕を持たない国民ばかりであることを自覚して、そこから改善していくべきであり、

裕福で時間にも余裕のある個人や自治体だけを見据えてアプローチしていくならば、終わりはすぐ目の前だと感じられる。

— 作成者 井福 大昌 —

視察・研修報告書

視察・研修先	世界文化遺産 軍艦島（端島）
日時	令和4年10月14日
場所	長崎県長崎市
テーマ	世界文化遺産「軍艦島」の観光資源としての活用を学ぶ
対応者 （講師）	なし
<b>概要</b>	
<p>長崎港から船で約40分のところに位置する端島（はしま）。小さな海底炭坑の島は、岩礁の周りを埋め立てて造られた人工の島である。岸壁が島全体を囲い、高層鉄筋コンクリートが立ち並ぶその外観が軍艦「土佐」に似ていることから「軍艦島」と呼ばれるようになった。最盛期の1960年には約5300人もの方が住み、当時、日本一の人口密度を誇っていた。島内には小中学校や病院などを完備、映画館やパチンコホールなどの娯楽施設もあり生活の全てを島内で賄うことができたそうである。</p> <p>端島炭坑の石炭はとても良質で、隣接する高島炭坑とともに日本の近代化に大きく貢献したが、主要エネルギーが石炭から石油へと移行したことにより衰退の一途をたどり、1974年に閉山、無人島となった。</p> <p>2009年に一般の上陸が可能となり、現在では多くの方が上陸ツアーに参加して軍艦島を訪れている。</p> <p>2015年7月世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産 ～製鉄・製鋼、造船、石炭産業～」として正式登録された。</p>	
	
<b>所感</b>	
<p>廃墟となった無人島が、観光資源として、息を吹き返している事が非常に興味深い。現在5社がクルーズ船を運行しており、今回も平日にも関わらず、また、料金は船内の席によって5,000円から10,000円と決して安価ではないにも関わらず、船内は満席であった。海外からの旅行者の姿も見られた。</p> <p>今回の全国都市問題会議のテーマは、「個性を活かして選ばれるまちづくり～何度も訪れたい場所になるために～」であるが、観光都市長崎市にとって、歴史ある軍艦島は、まさに訪れてみたい場所として、存在感を放っている。</p> <p>大野城市には、国指定特別史跡である大野城跡や水城跡など、史跡や文化財が数多く存在している。こうした文化遺産を観光資源として活用する事を検討していければと考える。</p>	
<p>-作成者 平田不二香-</p>	